

確かめよう！あなたの地域の防災力

わたしたちの地域は、
わたしたちで守ろう！



財団法人 日本防火・危機管理促進協会
この刊物は、**空じ**の社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



地域共通編…P.4

- ハザードマップを確認しましょう
- もよりの避難場所を確認しましょう
- 避難ルートを確認しましょう
- 情報伝達手段を確認しましょう
- 避難に助けが必要な人を確認しましょう
- 各種台帳を作成しましょう
- コンビニやガソリンスタンドを活用しましょう
- 防災倉庫の場所などを確認しましょう
- 防災資機材を確認しましょう

都市部の住宅地…P.9

- 地震の場合
- 風水害の場合

山間部の住宅地…P.11

- 土砂災害には要注意！
- 土砂災害から身を守るためには

沿岸部の住宅地…P.13

- 地震のあとは、津波に注意！
- 高潮には事前の備えが大切です

地震や水害など、さまざまな災害から身を守るために、わたしたちはさまざまな「備え」をしておく必要があります。

このパンフレットは、ご近所の人たちと話し合いながら、地域の防災について点検ができるように作成してあります。

前半には **すべての地域に共通** する点検項目を

後半には **「都市部」「山間部」「沿岸部」** で、とくに注意すべき災害とその対策についてまとめてあります。

ぜひ地域の皆さんの防災に役立ててください。

わたしたちの地域は、わたしたちで守ろう！



地震や風水害から、わたしたちの地域を守るためには、地域のみなさんの助け合いが大切です。それぞれの項目について、地域のみなさんでチェックしてみましょう。



地域共通編

【チェック】ハザードマップを確認しましょう

▲ハザードマップとは

災害発生時に危険な場所を示した地図のことです。地震、火災、津波、水害、土砂災害など、災害ごとに危険な場所は異なります。

それぞれの災害で危険になりそうな場所について話し合い、みなさんと地域のハザードマップを作ってみましょう。

お住まいの市町村でハザードマップを作成していることもあります。

アクセスしてみよう！



★ハザードマップ ポータルサイトを活用しましょう

全国の市町村のハザードマップを種類別にさがすことができる便利なサイトです。

<http://disapotal.gsi.go.jp/>



こちらのQRコードからもアクセス！

【チェック】もよりの避難場所を確認しましょう

お住まいの市町村ではどこが何の避難場所(避難所)に指定されているか、どのようなとき、どこへ避難すべきか、地域のみなさんで確認しましょう。

地域によっては、地震や火災、津波、風水害のときに避難場所が違うことがありますので注意が必要です。



【チェック】避難ルートを確認しましょう

ハザードマップと避難所の確認ができれば避難ルートの確認です。それぞれの自宅から避難場所まで、安全なルートについて話し合いましょう。

▲安全なルートのチェック項目

【地震のとき】

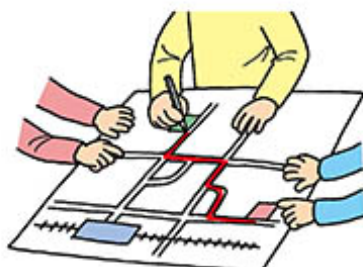
ブロック塀や積み上げた木材、くずれやすい崖など、余震でくずれの危険のある場所はなるべく通らないようにします。

【風水害のとき】

割溝にガードレールがあるような安全なルートを選択します。

【津波のとき】

海岸から遠いところより、高いところへ。



地域のみなさんだけでなく、家族のみなさんとも確認しましょう。

【チェック】情報伝達手段を確認しましょう

災害発生時に、地域や家族のみなさんが一緒に避難できるとは限りません。安否を確認するために、情報伝達のための手段について確認しましょう。

▲安否確認に「災害時伝言ダイヤル」を

災害発生時は、電話がつながりにくくなります。災害用伝言ダイヤルにかければ、安否情報を録音したり、再生したりすることができます。

いざというときのため、「忘れて171(いない)」と覚えましょう。



録音/再生時のダイヤル方法 録音時間/1伝言 30秒以内

◆録音するときは 171...1...0XX...XXX...XXXX...録音

被災地内のNITの自宅電話番号

◆再生するときは 171...2...0XX...XXX...XXXX...再生

サービスの開始時期 ◆震度6弱以上の地震の発生
◆地震以外の自然災害で電話が相当混み合っている時

毎月1日(1月1日は除く)には、体験利用ができます

利用可能な端末 ◆録音時間1伝言 30秒以内
◆携帯電話・PHSからも利用できます(一部の事業者を除きます)

避難に助けが必要な人を確認しましょう

避難するときはご自身の家族だけでなく、一人暮らしのお年よりや、体の不自由な人などにも気を配りましょう。



お年よりや体の不自由な人

一人暮らしのお年よりや、お年よりだけの世帯、体が不自由な人など、避難のとき介助が必要な人がどこに住んでいるか、どのように連絡を取り合うか、普段から確認しておく必要があります。

車いすを使っている人

車いすの人の避難を介助するときは、複数で行います。とくに階段では、3人以上で行います。上がる時は前向きに、降りるときは後ろ向きにするなど、恐怖感を与えないようにします。



目や耳が不自由な人

目の不自由な人には、はっきりと大きな声で話し、肘のあたりに軽く触れて誘導します。
耳の聞こえのよくない人には、近くによって口をはっきりあけて話します。まったく聞こえない人には、筆談が有効です。



各種台帳を作成しましょう

安否確認のために、地域の人々の住所や連絡先、家族構成、血液型などを記載した台帳や、避難のときに介助が必要な人についての台帳(災害時要援護者台帳)を作成しておく、いざという時に力を発揮します。

⚠️プライバシー、個人情報には配慮が必要です!

個人情報が記載されている台帳の管理には注意が必要です。
また、台帳への掲載を希望しない人がいた場合は、本人の意思を尊重することも必要です。

市町村では、自治体として台帳の作成をしたり、協力をしたりしているところがありますので、相談してみるとよいでしょう。

コンビニやガソリンスタンドを活用しましょう

避難場所まで移動する場合や、徒歩で帰宅する場合は、災害時帰宅支援ステーションであるコンビニやガソリンスタンドなどを活用しましょう。飲料水、トイレ、各種情報の提供といった帰宅支援サービスが受けられます。

⚠️こんなサービスが受けられます

一時休憩所として利用できます。

交通被害状況などの情報を提供します。

飲料水を提供します。

トイレを提供します。



⚠️このようなステッカーが目じるしです



帰宅支援サービスを行っている店舗では、入口付近にステッカーが掲出されています。サービスを行っている事業者については、お住まいの自治体にお問い合わせください。



★災害対応型自動販売機を知っていますか?

人が多く集まる場所や災害時避難場所に、災害対応型自動販売機の設置が進められています。設置状況については、お住まいの自治体にお問い合わせください。

受けられるサービス

- 自動販売機内の飲料水の無償提供
- 電光掲示板による災害情報の提供
- 住所表示ステッカーによる現在地の確認



災害対応型自動販売機



防災倉庫の場所などを確認しましょう

市町村によっては、指定する避難所に非常時の備蓄品をおさめた防災倉庫を設置していることがあります。



⚠️ 場所と解錠方法を確認しましょう

もよりの防災倉庫はどこか、鍵の管理者は誰か、ふだんから確認しましょう。

⚠️ 定期的に確認しましょう

備蓄品は十分か、賞味・使用期限はすぎているか、定期的にチェックしましょう。



防災資機材を確認しましょう

地域の防災力を高めるためには、自主防災資機材を備えておく必要があります。次のリストを参考に、地域に必要な資機材について話し合ってみましょう。

情報収集伝達用

- メガホン・拡声器
- 携帯用ラジオ など

救出用

- パール
- のこぎり
- 自動車用ジャッキ
- ハンマー など

炊出し用

- こんろ
- ガスボンベ
- 給水タンク
- 炊飯装置 など



初期消火用

- 消火器
- バケツ
- とび箱 など

救護用

- 担架
- 救急セット
- テント
- 毛布
- シート など



水防用

- シャベル
- スコップ
- ツルハシ
- ロープ
- かけや
- くい
- 土のう袋 など



避難誘導用

- ロープ
- リヤカー
- 強力ライト
- 拡声器
- 警笛 など

★お住まいの市町村の制度を確認しましょう

市町村によっては、防災倉庫の設置や備蓄品の購入にかかる費用を補助していることがあります。こうした制度を活用して、いざという時のために備えましょう。



地震の場合

⚠️ 狭い道路や古い建物が密集している場所は要注意！



狭い道路や堀ぎわは、消防活動や救急活動の支障となります。避難する際には、ブロック塀などが倒れてくるおそれもあります。事前にチェックしておきましょう。

⚠️ 阪神・淡路大震災では

阪神・淡路大震災では、密集市街地を中心として、建物の倒壊などにより発生した火災が、次々と老朽木造住宅に燃え移り、市街地大火となるなど、大きな被害が発生しました。



★住宅の耐震化・不燃化はお済みですか？

お住まいの住宅やマンションが倒壊しないよう、耐震改修や不燃化改修を行いましょ。市町村の中には、耐震改修や不燃化改修の助成を行っているところがあります。お住まいの市町村に相談してください。



都市部や山間部、沿岸部など、地域の特性によって、気をつけるべき点異なります。つづいては、地域ごとに注意すべき点をチェックしていきましょう。



都市部の住宅地では



過去の水害事例を調べよう！



局地的な豪雨による都市型水害が増えています。お住まいの地域の過去の浸水実績や浸水想定区域図、水害ハザードマップを確認しておきましょう。詳しくは、お住まいの地域の市区町村にお問い合わせください。

普段からの対策は？

排水口の清掃



雨水まですたまったゴミや落ち葉の清掃

玄関前やベランダにある外部の雨水の排水溝は、落ち葉や土などで詰まりやすくなっています。こまめに掃除しましょう。

水のうの用意



ゴミ袋を2枚重ねて、水を入れて口を縛りまします。段ボール箱などに入れ使うと効果的です。水のうの中に空気が入ると、水に浮かんでしまいますので注意が必要です。

非常用品の用意



食料や飲料水、懐中電灯や携帯ラジオなどの非常用品や、非常時に持ち出す貴重品はまとめておきましょう。

雨や地震による土砂災害には要注意！

土砂災害の種類

国土の約73%を山地が占める日本では、梅雨、台風などの雨が多く降る時期や地震が起きた時に、土砂災害が各地で発生します。

がけ崩れ



雨や地震の影響で、ゆるくなった斜面が突然、瞬時に崩れ落ちる。

地すべり



豪雨などにより、ゆるくなった斜面が下方に移動する。

土石流・鉄砲水



谷や斜面にたまった土・石・砂などが、豪雨や長雨による水と一緒に一気に流れだす。

土砂災害から身を守るためには

土砂災害から身を守るには、日頃から地域のみなさんと土砂災害に関する正しい知識や土砂災害の危険性がある場所についての知識を得ることが大切です。

① 地域の危険箇所を調べる

土砂災害情報マップや土砂災害危険区域図（ハザードマップ）で危険箇所を確認しておきましょう。土砂災害情報マップや土砂災害危険区域図は、お住まいの地域の市・区役所で入手できます。



(例) 富士市の土砂災害危険区域図

★雨が少ない地域も要注意！！

2009年（平成21年）7月に起きた中国・九州北部豪雨（山口豪雨）では、雨の少ない地域といわれた防府市で、死者19名、全半壊建物91件、床上浸水114件、床下浸水1,012件もの被害が発生しました。



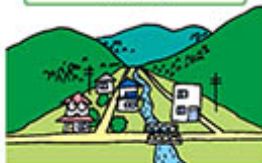
⚠️ こんな土地に注意しましょう

造成地



丘陵を切り崩してつくられた造成地は、地質や地形が不安定です。豪雨で地盤がゆるむと崩れる危険があります。

扇状地



山間部への集中豪雨で土砂流が発生すると、山のふもととの扇状地が直撃を受ける恐れがあります。

山岳地帯



急傾斜地は、雨でがけ崩れを起こす危険性があります。樹木の少ない山間部では土石流の注意も必要です。

② 避難場所や避難経路を確認する

避難場所や避難の道順など、日頃から地域のみなさんと確認しておきましょう。



③ 雨に注意する

1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら、土砂災害への注意が必要です。



④ 情報に気を配る

テレビやラジオなどの気象情報に気を配り、近所の方々なども連絡をとりましょう。

⑤ 避難の準備

日頃から非常用品を用意し、いつでも避難できる準備をしておきましょう。



沿岸部の住宅地では



地震のあとは、津波に注意！

海底で地震が起こると、津波が発生する恐れがあります。津波のスピードは早く、繰り返し陸地に押し寄せることもあります。地域のみなさんと、以下のことを確認しましょう。

⚠️ 津波から身を守るためには！

すぐに避難！



地震の揺れが小さくても、津波の危険性はあります。小さな揺れでも、避難することを最優先に行動してください。

デマ・俗説は信じない



デマや俗説を信じず、ラジオやテレビの津波情報を聞き、正確な情報入手しましょう。

車は使わない



車での避難は波涌を発生させます。波涌中に津波に巻き込まれるおそれがありますので、原則、車での避難はやめましょう。

「遠く」より「高く」に！



海岸から、より「遠く」ではなく「より高い」場所へ避難しましょう。

高潮には事前の備えが大切です

台風が近づいているときは、海の潮位が上がり、強風が吹き寄せて、より海面が高くなります。地域のみなさんで、事前に備えておくことが大切です。

⚠ 危険地域を把握する

津波・高潮のハザードマップを使い、自宅や職場周辺の危険地域を把握しましょう。いつでもどこでも対応できるように、避難所までの避難経路を確認しておきましょう。



⚠ みんなで実際に歩いてみる

ハザードマップで避難所や危険地域を確認するだけでなく、実際に避難所や高台まで歩いてみましょう。冠水しそうなどはないか、確認しておきましょう。



★東日本大震災では

2011年(平成23年)3月11日14時46分頃、東北地方の三陸沖でマグニチュード9.0という巨大地震が起きました。宮城県北部では震度7、岩手県、福島県、茨城県、栃木県で震度6強という強い地震でした。

地震の後、福島県相馬市で9.3m、宮城県石巻市鮎川で8.6m、岩手県宮古で8.5mの津波が観測されるなど(いずれも検測所で観測された値)、高い津波が各地を襲いました。

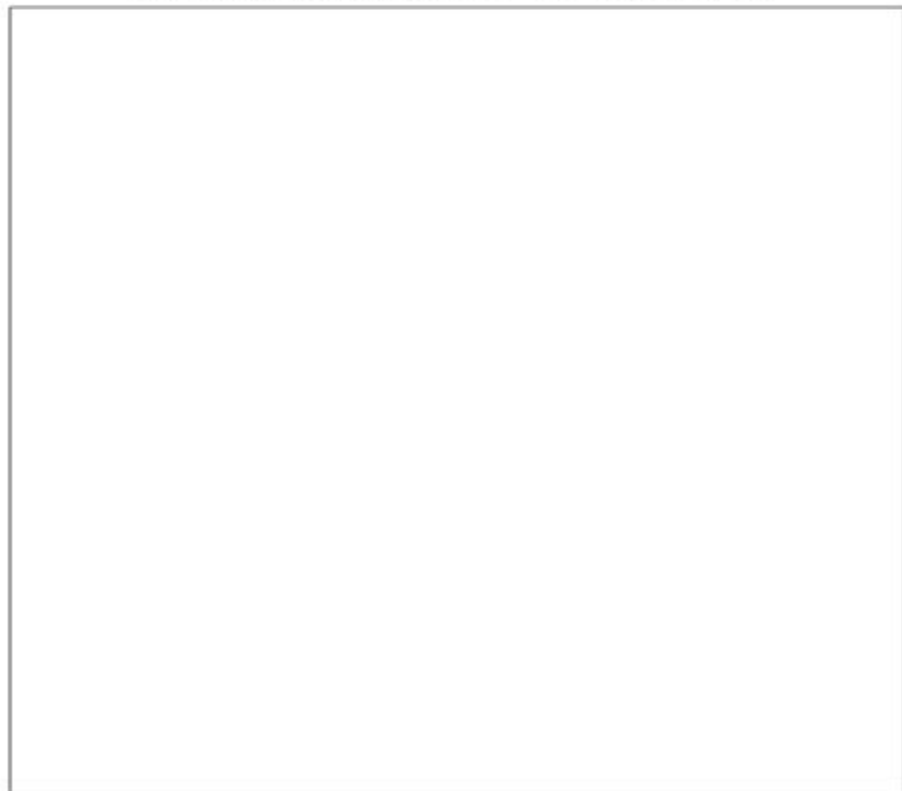
この津波によって多くの方が犠牲となりましたが、地震の後「すぐに」、「より高い」ところに逃げた人ほど助かったことが分かっています。



東北地方太平洋沖地震による津波の被害

防災マップをつくろう

みんなで街を歩いて防災マップをつくりましょう。



地図に書き込んでチェックしましょう

- 一時避難場所：()
- 広域避難場所：()
- 避難ルート
- 帰宅支援ステーション
- 災害対応型自動販売機
- 防災倉庫
- 防火水槽
- 狭い道路
- 建物が密集している地域
- 大雨浸水想定区域
- 土砂災害想定区域
- 津波被害予想区域

宝くじは、
地方自治体の公共事業等に
幅広く使われています。

NEW!

ワクワク、
続々。



宝くじの収益金は、
病院や検診車、図書館や動物園、
災害に強い街づくり、
緑あふれる公園、美術館など、
皆様の暮らしに役立てられています。

財団法人 日本宝くじ協会